

新潟県民主医療機関連合会ニュース

発行者
渡辺 大樹

12/9 核兵器廃絶を訴える宣伝行動に参加

12月9日(月) 原水爆禁止新潟県協議会(新潟県原水協)と新潟県憲法共同センターが共同開催した核兵器廃絶を訴える宣伝行動に県連事務局から3名が参加しました。

条約に署名、批准することを訴えて街行く人達に署名への協力をお願いしました。

日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)のノーベル平和賞受賞を祝福して、核兵器廃絶、日本政府は速やかに核兵器禁止

原水協の赤井純治代表理事からは、「今回の受賞は被団協が自らの体験をとおして人類の危機を救う決意で粘り強い活動を続け、核兵器禁止条約を実現させてことが評価されたものだ。同時に、世界の人達に『今こそ

核兵器廃絶に立ち上がろう」と呼びかける意味もある」と述べ、原爆投下の候補地だった「準被爆都市」の新潟から核兵器も戦争もない平和な世界をつくろうと声をあげようと呼びかけました。

1月22日〜24日には核禁条約発効4周年を記念する「新潟平和の波行動」が呼びかけら

核兵器廃絶に立ち上がろう」と呼びかける意味もある」と述べ、原爆投下の候補地だった「準被爆都市」の新潟から核兵器も戦争もない平和な世界をつくろうと声をあげようと呼びかけました。

折り鶴にメッセージをつけてドアノブに飾るなど身近にできることも沢山ありますので、多くの皆さんの参加をお待ちしています。



地域の診療所事務長30人が集い交流

職場づくりと診療所運営を深める

12月20日〜21日(金・土)、北関東甲信越地協診療所事務長交流集会が、新潟で開催されました。2019年ぶりの現地開催となりました。

し、翌朝になって大事なものが落としていることに気が付くほど、新潟で美味しいものを堪能したようです。

開催までの約半年間、5回にわたり実行委員会にて企画を検討してきました。テーマは「職場づくり・診療所運営」とし、講師には全日本民医連副会長の川上和美さんを講師に招きました。

2日目は各県連より「職場づくりの実践報告」をテーマに指定報告がありました。新潟からはとくわ診療所の鈴木事務長が報告しました。その後のグループワークでは、指定報告をもとに更に議論を深めました。

初日は講演とグループワークが行われ、グループワークでは悩みや苦労・運営課題等を出し合いました。話が途切れることなく、事務長さんたちの幅広い業務、その中での苦労や葛藤等の話が印象的でした。

夜は交流会が開催され、方言クイズを県連対抗で行い盛り上がりしました。新潟からは「はよしね」が出題されましたが、驚くことに全員正解でした(正解は、早くしなさい)。今回のサブテーマには「美味しいもの ふつつ新潟! 出会って学んで職場づくりのお悩みパクッと解決☆」です。みなさん夜の街に繰り出

86回のニュースを発行

そして新たな工夫も

今年はい月から本日まで、86回のニュース発行をしました。数はまだ少ないですが、そのうち何回かは、原稿を頂き発行してきました。こちらから原稿依頼したものもありますが、自主的に活動報告をくださる方もいて本当にありがたかったです。

そして今年の途中からは、全部署に直接ニュースを配信することができないかと考え、10月よりグーグルドライブを活用しての配信となりました。これにより、少しでも目につく機会が増えていけば幸いです。また発

2月には編集ソフトを活用し2〜3話を一つにまとめて配信することにも取り組み始めました。まだ回数は少ないですが、今後継続していきます。来年は、皆さんからの「情報提供」が増えていくとありがたいです。県連だけでは皆さんの取

行回数が多くなったり、多すぎたり、あるいは、1〜3話を一つにまとめて配信することにも取り組み始めました。まだ回数は少ないですが、今後継続していきます。来年は、皆さんからの「情報提供」が増えていくとありがたいです。県連だけでは皆さんの取



開会の挨拶をする大谷勤医協専務

り組みは掴みきれません。ぜひ皆さんから、簡単でも結構ですので、こんな取り組みしているよ!といった情報をお寄せください。それでは良いお年を。編集委員一同



指定報告を行う鈴木事務長